

令和2年度 第1回松本市都市計画策定市民会議 議事録

開催日時： 令和2年7月30日（木）午後2時00分から午後3時50分まで
開催場所： 東庁舎3階議員協議会室
出席委員： 中出文平委員長（長岡技術科学大学副学長・教授）
二條宏昭副委員長（アルピコ交通株式会社運輸事業本部副本部長・中南信支社長）
向井健委員（松本大学総合経営学部専任講師）
原弥生委員（松本ハイランド農業協同組合担当理事）
増田富重委員（松本広域森林組合代表理事専務）
松岡喜久子委員（松本商工会議所女性部幹事）
田力淳子委員（松本商工会議所女性部事業委員長）
小林秀行委員（長野県建築士事務所協会松筑支部副支部長）
宮坂祐里委員（長野県不動産鑑定士協会総財務委員会副委員長）
大藏章男委員（松本市建設業協会理事）
南雲剛委員（東日本旅客鉄道株式会社長野支社総務部長）
内山博行委員（松本市町会連合会長）
木下英樹委員（長野県松本建設事務所計画調査課長）
服部公威委員（公募市民）
松山紘子委員（公募市民）
宮下鉄委員（公募市民）
欠席委員： 井上信宏委員（信州大学経法学部教授）、塩野崎道子委員（松本市農業委員会委員）
その他： 和田技術専門員（長野県松本建設事務所）
事務局： 上條建設部長、桐沢都市政策課長、岩淵係長、岡田課長補佐、内木技師、今井技師

1 開会

（司会）

第1回都市計画策定市民会議を開会するのでよろしくお願ひしたい。この会議は今年3月13日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により急遽延期をした。本日はマスク着用、換気等の予防策をしたうえで、円滑な進行に努めたい。

2 あいさつ

（事務局）

新型コロナウイルスで延期したことにより、今年度の第1回の会議となった。都市計画マスタープランは平成22年3月に策定し、平成25年3月には波田地区を追加する見直しを行った。今回の見直しでは、急速に人口が減り、高齢化が進行する地域のコミュニティの維持や、都市の活力を図るための産業集積の視点から見直しを図りたい。また、梅雨の時期で、全国で大雨による水害が発生している。災害とまちづくりをどのように結びつけるのか、また関係機関がどのように連携するのかという方針が国からも示されている。本市においても、こうした視点からの検討は必要と考えている。本日は検討中の全体構想の素案について、様々なご意見をいただき、計画に活かしていきたい。

3 委員紹介

(司会)

- ・事務局職員の紹介
- ・新たに就任された委員の紹介(内山博行委員)
- ・欠席した委員の報告(井上信宏委員、塩野崎道子委員)

4 議事

(委員長)

市民会議は7か月ぶりの開催となった。今日は2つの議題がある。前回の会議で宿題となっていた、都市計画マスタープランの評価、現行計画の取組状況について説明いただく。次に、都市計画マスタープランには、全体構想、地域別構想、都市計画の実現化方策の3つの柱があるが、その中から全体構想について説明いただく。

(1) 松本市都市計画マスタープラン(現行計画)の取組状況について

(事務局)

- ・資料1の説明

(委員長)

今の説明に対して、質問や意見はあるか。

取組状況の評価指標は100以上あり、多いので整理したいということであった。また、定量的に把握できないものをどう見ていくかについて、検討したいとのことであった。これらの点について、もう少し詳しく説明してもらいたい。

(事務局)

現行計画には、4つの目標の下に19の方針、その下に100以上の施策がある。施策が多すぎてPDCAが分かりにくい内容となっている。PDCAの方法、指標を庁内で見直していきたい。

また、事業の実施状況は1つの指標ではあるが、その結果として、どのようなまちになっているのか。計画に基づいた施策が市民の皆さんに受け入れられて、住みやすいまちになっているのかを定性的になると思うが、評価していきたい。

(委員長)

アウトプットによる評価だけでなく、アウトカムによる評価をしたいということであった。当然定量的に把握できないものもあるので、それを念頭に置いて考えてもらいたい。

(委員)

資料1の施策の分類に、「歴史文化資源を活かした魅力ある観光のまちの形成」とある。松本市では、143件の近代遺産を指定しているが、その内容はホームページでの簡単な紹介に留まっている。具体的に、各遺産の場所を示すマップや、文化財的価値観からの指定根拠について、市民の目に触れる形で情報の公開を行い、今後観光資源として活用できるようにして欲しい。

(事務局)

近代遺産に関する情報をホームページに載せているところであるが、所有者の了解を得ないと、公表できない事情がある。今後は、所有者の意向をいただきながら、より具体的な内容の公表に向けて取り組んでいきたい。併せて、近代遺産の中から、松本市の指定文化財に指定して、保全する取組を進めていきたいと考えている。また、都市計画マスタープランの改定にあたっては、全体構想における景観形

成の整備指針に近代遺産に関する視点を追加していくことを検討したい。

(委員長)

私の住んでいる長岡市は、明治維新で全部焼かれて、残された僅かな歴史的なものを守っていないといけない。それに対して、松本市は143件あり、市民のプライドや、観光の面で活かせる資源なので、都市計画マスタープランにもきっちりと示せると思う。また、都市政策課から担当課に情報を回してもらい、総合計画に位置付けることも考えたかどうか。

(委員)

中心市街地には狭隘道路がある。また、中山間地は森林に覆われ、機械が入れない細い道が多く、荒廃に繋がっている。都市計画マスタープランでは、全体の交通インフラを見渡せる形で、将来像を示してもらいたい。

(事務局)

本市の公共交通・渋滞対策課では、交通について市全体を対象とした検討を行っており、次世代交通政策実行計画では、バス、自転車を含めた交通全体に関する計画に関して、具体的な施策を行っている。都市計画マスタープランでも交通の方針を示すことになる。中山間地の公共交通、中心市街地における歩行者、自転車優先のまちづくりなど、公共交通・渋滞対策課と連携し、いろいろな面から交通について考えていきたい。

(2) 松本市都市計画マスタープラン見直しの基本的考え方(全体構想素案)

(事務局)

・資料2を説明

(委員長)

資料2の将来都市構造までの内容に関して、質問や意見はあるか。

(委員)

新しい都市構造図で、現行計画の骨格構成方針図、都市構造図を合わせたとのことだが、もともとは5つの軸を設けており、それを2つの軸にまとめる形となっている。現行計画にあった複合産業軸は、今度の構造図には示されていない。放射方向の軸として都市間連携軸、地域間連携軸が示されている。外環状道路の沿道には臨空工業団地などがあり、産業系で重要な道路になるのではないか。

また、資料 p.10 の詳細図で、都市活動拠点で、高速道路、中部縦貫自動車道が示されているが、松本波田道路に産業・研究拠点が2つ示されている。田園環境保全ゾーンの中であるが、インターチェンジの近くに、拠点の構想を持っているのか。あるいは、踏み込み過ぎであれば、位置づけの方法を考えた方がよいのではないか。

(事務局)

環状道路の役割が見た目に分かりにくいのではないかと、環状高家線は工業団地が沿道にあるので産業複合軸を外して良いのかという質問であったと思う。見た目の改善はご意見を踏まえて改善していきたい。現行計画では、人や交通の流れを表した軸、土地利用のゾーンを設定した軸が混在している。今回の計画に示す軸は前者の軸としたい。土地利用に関しては、土地利用方針図の中で、道路周辺の土地利用として示したい。

(事務局)

松本波田道路の地域活性化インターの位置に拠点を落としているが、ここだけに限らず、インターチェンジ周辺の土地利用を考えていかないといけない。見直しを図る中で意見をいただきながら、拠点を

示した方がよいのかどうか、今後の検討課題としたい。

(委員)

他の産業・研究拠点は既存の工業団地に位置付けられているので、それと同じ位置づけをしてもいいものなのかと思い、意見した。

(委員長)

都市計画マスタープランは20年後を見据えた計画である。インターチェンジの周りでは、交通体系を活用した土地利用をして然るべきと考えており、詳細の土地利用の内容が決まっても早めに位置付けるべきである。立地を希望する企業に対して市の方針を示しておくという意味もある。インターチェンジの整備予定地として明示すればよいのではないか。

今回示された環状道路と放射道路は、新しく道路を整備していくという話ではない。郊外部の持続性を高めるには、地域間を連携し、アクセスを確保する必要がある。地域間連携軸の定義を示しておけばよい。都市間連携軸はもっと大きな軸である。計画策定までまだ1年あるので、ゆっくり議論を進めてもらえればよい。

(委員長)

人口フレームについて意見を述べたい。現行計画では、社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)の推計値が減り過ぎるので、政策により5,000人を上積みで定着するとしていた。他の自治体では、まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンで、出生率を上げ、かつ転出しないようにすると想定して、将来人口を上方修正にしたものの、破綻をきたして人口ビジョンを見直しているところが多い。都市計画マスタープランでは、総合計画で設定する目標人口を受けざるをえない。そのため、社人研の推計値に対して、総合計画で現実的でない上積みはやらないでほしいと総合計画の担当課に伝えて欲しい。松本は、特別何かの施策をした結果人口が増えたというわけではなく、ただ結果として人口が増えたというのにすぎないので、その点を意識してほしい。

それでは、p.11以降の都市整備の方針について意見はあるか。

(委員)

今回のコロナでテレワーク、働き方改革が進み、働く場所は変わるのではないか。ある建築雑誌では、東京のオフィスは半減するのではないかという話があった。商業、業務ゾーンの考え方も変わるのではないか。Amazon.com、楽天市場、Yahoo! JAPAN等をみていると、商業形態は変わってきている。その点を加味しながら今後のことを考えないといけない。

(事務局)

コロナの関係でかなりテレワークに移行してきている。ゾーンの考え方、場所が変化する可能性がある。考慮はしていくが、都市構造として、現在の商業ゾーンを大幅に減らすのは考えにくい。

(事務局)

用途地域の指定などは、都市計画マスタープランのゾーンに即して行う。高度利用を図る地域と、良好な住宅地を守る地域の棲み分けも大事であり、そうした視点からもゾーンは考えていく必要がある。

(委員長)

大型店の郊外出店は続いているが、今後少子高齢化が進むと、郊外出店に人が集まらなくなる予想もある。また、人口が減ると、インターネットで買った荷物を運ぶ人がいなくなるかもしれない。駅留めで荷物を届けてもらうシステムが昔はあった。これからは、コミュニティ施設留めで荷物を届けてもらうようなシステムになるかもしれない。運ぶ人が減るのは目に見えている。10年後の予測は大変難しい。視野には入れるが、まずは今の状況で最善を考えることしかできない。状況は徐々に変わっていくのは

目に見えている。高齢者は増え続け、団塊の世代が 90 歳を超えるまで高齢者は減らない。なるべく自動車を使わずに、歩行や自転車を選ぶ社会に変えたい。公共交通をどう活かすかも考えないといけない。遠くの未来まで見据えるのは難しい。庁内会議で、そうした情報を仕入れてこちらに反映するようにしてもらいたい。

(委員)

上下水道、都市防災に関してだが、冠水する地域にライフライン(島内第一水源地)指定避難場所(田川小学校)の施設がある。松本市の地形では水が集まってきてしまう。ハザードマップは平成 26 年に作られているので、指定避難場所の見直しはこれからだと思う。上水道施設も適地であるのかどうか、検討しなければいけないのではないかと。

また、施策として LRT、BRT の研究が挙げられている。国内でも導入している都市がある。ヨーロッパでは小さな都市でも運行されている。新しい交通システムは研究で終わらずに、積極的に導入してもらいたい。

(事務局)

防災上のご指摘はその通りである。防災マップの浸水想定区域は 100 年に 1 回の降雨を想定したもののだが、昨年度県が 1,000 年に 1 回の降雨で浸水想定区域を想定している。ハザードマップに記載の区域よりも浸水想定区域は広がる。ソフト・ハードでどう対応するか、庁内でも調整していきたい。

LRT、BRT 導入の研究に関しては、次世代交通のあり方を庁内で並行して検討している。LRT、BRT に限らず松本市に適したものを導入することを都市計画マスタープランに位置付け、またそれに連動した土地利用を検討していきたい。

(委員長)

今日は様々な意見をいただいた。事務局は意見を踏まえて、見直しの項目、全体構想の案を見直してもらいたい。また、意見に対して修正した事項が分かるようにしてもらいたい。

最後に、言い忘れた内容等があれば伺いたい。資料 2 は量が多いので、もう一度見て気が付いたことがあれば、2 週間程度のうちに事務局へ連絡してもらえれば、反映できると思うのでお願いしたい。

5 その他

(事務局)

次回の会議は年明けを予定している、決まったら連絡したい。コロナにより会議の開催が遅れたこと、総合計画が並行で検討されていること、長野県の都市計画区域マスタープランも策定が半年遅れる見込みであることから、この計画も改定を令和 3 年度に延長することを想定している。計画の見直しが終わるまで委員をお願いしたい。

地域別意見交換会は、コロナにより地域に入って開催するのは難しい状況である。町会連合会に説明したうえで、従来の説明会形式に捕らわれず、コミュニティのミーティングへの参加、各種イベントでのオープンハウス、地域づくりセンター長などへの聞き取りにより実施していきたい。

前回及び今回の会議の議事録は、委員に確認していただいたうえでホームページに公表したい。

6 閉会

(司会)

議題は以上となる。これで会議を閉会としたい。

以上